Project No.
27 | 暮らし

LPWA通信網を活用し、鳥獣被害の減少につなげるとともに見守りカメラやサイネージで安全・安心・便利な島の暮らしを実現

TRY ANGLE EHIME
トライアングルエヒメ

採択事業者名 株式会社ノトス

コンソーシアム構成員 株式会社ノトス｜株式会社エス・ピー・シー｜株式会社ウェルソック｜株式会社ごごしま

勉強会の実施概要

勉強会の目的	鳥獣対策ソリューションを中心にDXアイランド興居島での取り組みを愛媛県内関係者に紹介、共有し、次年度以降の水平展開の足掛かりとする。県内各地の鳥獣対策に関する課題等やニーズを抽出し、鳥獣対策ソリューション改善につなげる。
勉強会の当初のゴール想定と結果	次の点を参加者に認識いただくことをゴールに設定した。 ●鳥獣対策ソリューションを導入することによって、狩猟の労力の軽減につながること ●今後、愛媛県内ではますます鳥獣の被害が予測され、狩猟者を増やす必要があり、そのためには今回興居島で導入したソリューション等を活用し、労力軽減につなげることが効果的であること ●今回、実装のために整備したLPWAを使用すれば、鳥獣対策だけでなく防災や農業など様々な分野に活用できること 【結果】勉強会に対する満足度は高く、鳥獣対策ソリューションの有効性、LPWAの活用方法について理解を深めていただいた。
参加者	愛媛県内の森林整備・農林業・狩猟関係者。 松山市農水振興課／伊予市農業振興課／西条市林業振興課／久万高原町農業戦略課／愛南町農林課／愛媛県猟友会／愛媛たいき農業協同組合ほか
協議アジェンダ	興居島の課題／事業概要／LPWAの仕組みと中山間地域でのメリット／鳥獣対策ソリューションの仕組みと興居島での施工に関して／鳥成果報告／他地域での事例／質疑応答／名刺交換・交流
協議による実装推進上の重要な決定事項/示唆	県内への水平展開に向けては、その多くの場合、ユーザーが猟友会になる可能性が高く、駆除にかかる補助金のなかで調達できるよう、ランニングコストの削減が必要である。また、次年度は見回りの時間とともに狩猟者の心理的・体力的負担の軽減も可視化し費用対効果を検証する。
その他補足事項など（開催頻度、規模など）	2023年3月に開催。来年度は興居島でも勉強会を行い、見回り労力の削減や心理的・体力的負担の軽減などそのメリットを訴求し、若手狩猟者潜在層へのリーチにつなげる予定である。

デジタル実装協議フォーマット

目指す「実装成果」の定義	興居島の主産業である柑橘産業やその後継者の獲得において大きな課題となっている「鳥獣被害」。その対策のために鳥獣対策ソリューションを導入し、見回りにかかる労力を軽減。負担の少ない捕獲モデルを確立し、罠および狩猟者の数を増やし、鳥獣被害の削減につなげる。
データに基づく協議ポイントの整理	●鳥獣対策ソリューションの導入による見回り労力の削減 ●携帯圏域外でも電波が届くLPWA導入のメリット ●持続可能な運用モデルとンニングコストの算出
主なデータ項目	●鳥獣対策ソリューション活用により削減された見回りにかかわる労力（時間） ●利用者へのアンケート・聞き取り調査による満足度および要望 ●罠センサーの設置場所と作動履歴
ガイドライン（含む具体例）	〈狩猟者A氏〉（全ての罠15ヶ所にセンサー設置）毎日40分の見回り→4日に一度20分、箱罠に餌を仕掛けるだけに。さらに、捕獲時に発生するトドメ道具（銃や刃物）を取りに帰る時間が年間20時間削減。計年換算233時間の削減。 〈狩猟者B氏〉（30ヶ所の罠のうち18ヶ所にセンサー設置）毎日1時間40分の見回り→毎日40分程度に。トドメ道具を取りに帰る時間年間30時間削減。計年間395時間の削減。このように、鳥獣対策ソリューションは見回り労力の大幅な削減につながり、協力いただいた興居島猟友会の評価も高く、今後の整備エリア拡大のニーズも大きい。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	猟友会では狩猟を副業としている方が多く、見回りにかかる多大な労力は心理的・体力的負担にもつながっていた。また、見回りにかかる車両燃料費の負担も決して少なくない。時間だけでなく、こうした心理的・体力的負担の軽減、燃料費の軽減も可視化することが効果的である。

勉強会の様子-愛媛県官民共創空間トライアングルベースで実施した勉強会の様子

LPWA-興居島島内に設置したLPWAの基地局

罠センサー設置図-小富士地区における基地局・中継器・罠センサーの位置

箱ナワ作業-見回り時に箱罠において作業を行う猟友会の方

	A 氏	B 氏
当事業における罠センサーの設置	罠センサー 15 ヶ所設置（全ての罠にセンサー設置）	罠センサー 18 ヶ所設置（設置罠数 30 ヶ所）
毎日の見回りに関して	毎日 40 分の見回り →4 日に 1 回 20 分箱罠に餌を仕掛けるだけに 年間に換算すると 243 時間→30 時間＝213 時間の削減（A）	毎日 1 時間 40 分の見回り →1 日平均 40 分程度に 年間に換算すると 608 時間→243 時間＝365 時間の削減（A）
捕獲時のトドメ道具持参の時間	1 年間で 20 時間の削減（B）	1 年間で 30 時間の削減（B）
年間労力の軽減（A)+(B)	233 時間	395 時間

表-当事業で削減可能と検証できた狩猟にかかる時間

勉強会実績

Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.